

CCBJニュースレター 第74号

2020年05月28日

会員の皆様、

新型コロナウイルスの世界的流行が続いておりますが、会員の皆様はお健やかに過ごしのことと存じます。当会議所ではウェブサイトやフェイスブックを通じて、飲食店のデリバリーサービスの拡充や、マスクの輸入、企業による支援事業など、会員企業各社が実施している様々な取り組みを紹介しております。

コロナ禍の中、助け合い運動の広がりも見られます。今月のニュースレターでは、日本政府が打ち出した企業向けの救済策を紹介する記事を掲載しましたが、政府や自治体も企業の事業継続支援に取り組んでいます。

今月号では、漢和塾BrAsia事業部代表取締役の小川善久氏にブラジルと日本をつなぐ絆の重要性についてご寄稿いただきました。

そのほかにも、ブラジルの消費や労務、農産物輸出、日本政府による中小企業向け支援策などについての記事も掲載しましたので、ご覧ください。

それではよろしくお願いします。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(寄稿)

日本人にもっと知ってもらいたい
遠くて近い国ブラジルの日系社会

(株)漢和塾 BrAsia事業部
代表取締役 小川 善久

Muito Prazer !な方も多いと思いますが、少し自己紹介をさせていただきます。私は1987年に大阪外国語大学（現大阪大学）のポルトガル語学科に入学しました。が、なんと在学中も卒業後もブラジルに行くこともポルトガル語を使う機会もなく過ごしてきました。が、7年前に縁があってブラジルに行くことになり、以降ビジネスと音楽も相まって出張ベースではありますが13回にわたりブラジル各地に足を運んでいます。

ビジネスでの繋がりがご縁となって、各地で行われる日本祭りに参加させていただくことになったのは6年前のポルトアレグレ。ドイツ系の雰囲気のある整然とした街で出会ったのは、日本の文化を引き継ぐ日系ブラジル人の若者の熱演でした。太鼓にお琴に書道に着物、最近の日本人でもあまり馴染みがないかも知れないいわゆる「伝統」が地球の反対側の街で、ブラジル人ネイティブの大歓迎を受けて継承されていたのです。

私はと言うと、そもそもブラジルの歴史もまともに勉強していなかったのですが、たまたま3回目のブラジル訪問の時にお世話になったホームステイ先のおばちゃんが、13歳でアマゾンに家族と移住して、すでに65年も経つ移民一世の方で、わずか10日ほどの滞在でしたが、毎晩お食事時に当時のお話を聞かせてもらいました。想像を絶する苦労話に加えて、いつも前だけを見て頑張ってきた！と涙話を笑顔で語るおばちゃん、そんな物語を元に「百と十年の轍（わだち）」や「この地に舞い降りたのは」など日系移民の方の思いを綴った歌を日本祭りのステージで披露させていただき、昨年2019年はサンパウロ、さらにアマゾン各地のイベントで歌わせていただくことになったのです。

日本でブラジルと言えば、コーヒー、サッカー、アマゾン、サンバ、いいところのようなワードがやっとなで、一部の人を除いてはその距離の遠さも手伝って縁遠い存在かも知れません。そんなところに日本よりもある意味日本的な文化が112年前から芽生え育っていることを知る人は少ないでしょう。私の仕事は大手企業の社員が海外に赴任する前の語学研修ですが、結果的にブラジルと一番接点があるのがその赴任者、さらに家族の方です。が、私が最初にしたのは、現地に根差した県人会も含めた日系移民の方々と、その駐在員や企業との連携が意外に希薄だったことです。もちろん人によりますが、地元の日系の方々が一致団結して開催している日本祭りには、日本政府はもとより、日本の大企業はもっと協賛、協力をしてもおかしくないのでは？もちろん、ビジネスマンは3～5年の周期と任務があるので仕方ないこ

とではありますが、採用面や営業面においても日系の方々のネットワークは貴重です。

日系社会も世代交代、高齢化と言われていますが四世、五世の若者には日本語を話す人も少なくなっていますが、根底には日本人の血が流れています。逆に言えば、現地ブラジル人に溶け込んでいるとも言えます。日本企業からの若手の駐在員も増えていく中で、是非、若者同士でコミュニティを作り、新しい日系社会を構築、さらにブラジル人ネイティブへと広がる世界を作っていけないものかと思います。そのためには、翻訳アプリが主流の時代とは言え、やはり生の言葉の重要性は高く、日本人ならポルトガル語を、ブラジル人は日本語を学ぶだけで人種や世代の垣根を越えることができます。全世界的に先行きが少し見えない情勢ですが、落ち着きましたら私もできるだけ早くブラジルに足を運び、その行く末を見守りたいと思います。

(経済)

4人に3人は消費抑制を継続

ブラジルではコロナ後の失業への不安と消費抑制継続の意向が、経済の再活性化を阻む要因となると見られています。ブラジル全国工業連盟（CNI）が実施したアンケート調査によると、全回答者の**77%**が失業の不安を感じる（非常に不安**48%**、ある程度不安**19%**、少し不安**10%**）と答えており、多くが収入面ですでに影響を実感していることが分かりました。同アンケートでは隔離措置終了後の消費や行動などについて調査しました。

詳細はこちら：<https://noticias.portaldaindustria.com.br/noticias/economia/tres-em-cada-quatro-consumidores-vao-manter-reducao-no-consumo-no-pos-pandemia/>

出所：ブラジル全国工業連盟（CNI）

CNI 企業向け新型コロナ対策を解説

新型コロナウイルス感染拡大の影響で企業の業績が悪化する中、人員削減の数を最小限に抑えつつ現在の危機を乗り切るためには、労務コンプライアンスの見直しが重要となります。ブラジル全国工業連盟（CNI）は、連邦政府が導入したコロナ対策について分かりやすく解説したガイドブックを作成しました。

詳細はこちら：

<https://conexaotrabalho.portaldaindustria.com.br/noticias/detalhe/trabalhista/-geral/confira-aqui-o-documento-atualizado-das-sinteses-de-medidas-trabalhistas-para-enfrentamento-da-pandemia/>

出所：ブラジル全国工業連盟（CNI）

4月のブラジルの農産物輸出 過去最高を記録

今年4月のブラジル産農産物の輸出額は102億2000万ドルに達し、初めて100万ドルを超えました。これまでの最高記録だった2013年4月の96億5000万ドルを上回り、前年同月の81億8000万ドルから25%増加しました。記録更新の主な要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で需要が増加した大豆の輸出増が挙げられます。4月の大豆の輸出量は前年同期より700万トン多い1630万トンに達し、73.4%増となりました。最大の輸出先は中国で、全輸出量の72.3%を占める1179万トンでした。

ホームページ：<http://sistemasweb.agricultura.gov.br/pages/AGRO-STAT.html>

出所：農牧食料供給省

事業者向け救済措置

新型コロナウイルス感染拡大の影響で経営難に苦しむ事業者を対象に、日本政府は様々な救済措置を打ち出しています。中小企業には最大**200万円**、個人事業主には最大**100万円**が支給される持続化給付金や、雇用調整助成金のほか、国税や地方税の1年納税猶予などの支援策が設けられています。

ホームページ : Homepage:

<https://www.meti.go.jp/press/2020/04/20200408002/20200408002.html>